自治体別の死者・行方不明者数

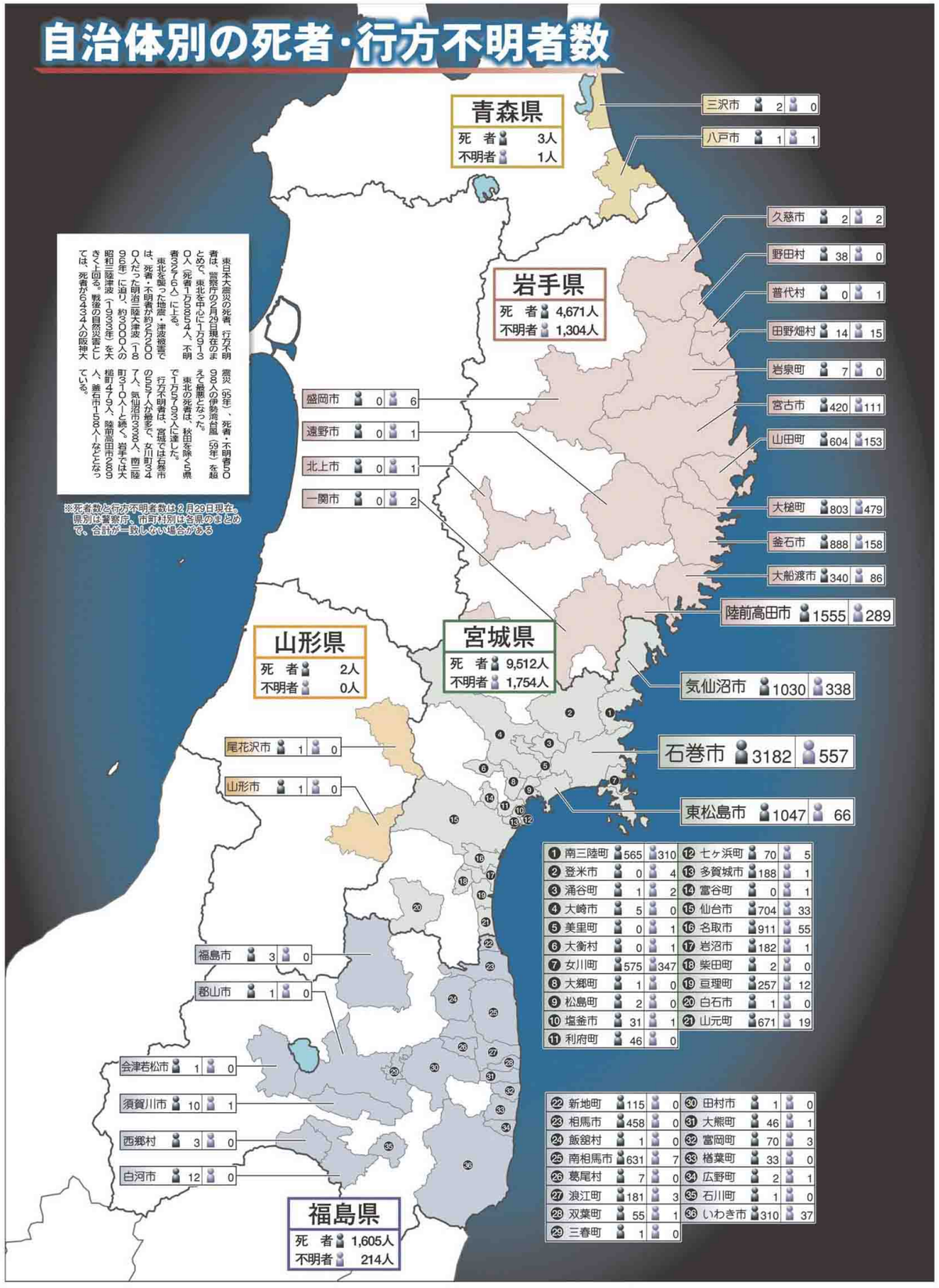
東日本大震災の死者、行方不明者は、警察庁の2月29日現在のまとめで、東北を中心に1万9713人（死者1万5554人、不明者3756人）に上る。

東北を襲った地震・津波被害では、死者・不明者が約2万2000人だった明治三陸大津波（1896年）に迫り、約3000人の昭和三陸津波（1933年）を大きく上回る。戦後の自然災害としては、死者が6434人の阪神大震災（95年）、死者・不明者5098人の伊勢湾台風（59年）を超えて最悪となった。

東北の死者は、岩手県など5県で1万7593人に達した。

行方不明者は、宮城で2533人、気仙沼市338人、陸前高田市289人、石巻市557人、南三陸町310人と続く。岩手では大槌町470人、陸前高田市289人、釜石市158人などとなっている。

※死者数と行方不明者数は2月29日現在。県別は警察庁、市町村別は各県の集計まとめで、合計が一致しない場合がある



焦点

行方不明者

大震災から1年

「家族の元へ」総力戦

機転と粘りで突破口

東日本大震災による犠牲者のうち、遺体が発見・収容されながら、まだ身元が判明していない人は、岩手、宮城、福島の3県で計482人に上る。

発生から約1年が経過し、遺体の身体的な特徴や歯型、所持品などで身元が判明するケースはほぼなくなった。身元確認は発見現場の様子や遺留品などから犠牲者の人となりを探るプロの捜査力と、DNA鑑定を柱とした科学的な手法に頼らざるを得ないの現状だ。

各県警は「せめて遺骨だけでも」と願う家族の切実な思いに応えようと、事件捜査と同じように地道で根気のいる作業を重ねている。

行方不明者届出表（旧石巻吉果卉地方卸売市場）No.2

一日も早く遺体の身元を確定させようと、捜査員の粘り強い作業が続く＝宮城県警本部

遺体安置所で洗濯される身元不明遺体の着衣。各県警はわずかな手掛かりを求め、地道な作業を重ねた＝2011年4月、釜石市

捜査の眼力

手掛かりがほとんどない中、真相を調べていた捜査員たち。

担当した捜査員の1人は「男性が着ていた服の特徴や、遺体と一緒に流れ着いたアルバムが写っていたのを覚えている。アルバムを調べてもらえば、まれな苗字なので発見・収容された身元不明遺体の特徴、所持品などと照合できるかもしれない」と振り返る。

昨年4月5日、石巻市と、写真には撮影場所のヒントとなる建物などが写っていた。

9月下旬、津波による死亡と判断された男性遺体の身元を調べる作業が難航していた。所持品などから、石巻市と、石巻市に隣接する東松島市の2市に絞り込んだ。

火災による焼死と区別するため、歯型を調べる「歯科的特徴」の照合作業。身長が比較的高い男性の物と一致した。

石巻市内で5月頃から行方不明になっていた男性の家族が捜索願を出していることが判明。歯型などが決め手となり、身元が特定された。

災後、姿を見せない家族がいるとの情報を得て、ほぼ身元が絞り込まれた。

家族が最終確認し、市内在住の男性（当時43）と判明した。

「一人ぼっちにしてごめんね」。仏壇に供げた写真から探し当てたんだなぁ…」。家族は涙ぐみながら、遺体を引き取ったという。

このほか、宮城県警では、上着のタグに書き込まれた半仮名1文字から名前を推測し、身元の特定につなげた例や、携帯電話の製造番号や通信履歴などから身元を割り出したケースもある。

県警捜査1課の金野芳弘課長補（58）は「必ず手掛かりがあるはず。一日も早く身元が特定できるよう努力する。家族の方には、もうひと踏ん張りしていただきたい」と話す。

科学の目

頼みのDNA照合続く

●特徴・所持品

岩手、宮城、福島3県で、発見された6割の身元が分からなかった遺体（震災関連死を除く）。

県警は通常、写真を撮り、各種歯型によると、まだ身元が判明していない。

●画像鑑定

遺体を記録するとともに、身元特定に役立てるため、歯型鑑定という手法を活用した例もある。

遺体の顔写真と家族らから提供を受けた写真を比較。耳や鼻の形の違いなどで遺体と本人とを照合して、遺族がされ入りしている場合は、身元の特定まで至らない。

宮城県警は、この技術との遺品が流で10人以上の身元特定に相当数による「合同捜査本部」というのだ。

●総合的判断

津波で激しく損傷した遺体は、親やきょうだいなどの手掛かりが失われ、DNA鑑定も「親子の可能性が高い」などの結果しか出ないケースが多いという。

捜査関係者によると、記録が分かれば、身元特定の大きなヒントになるため、歯型などの警察官に連絡してほしい」と呼び掛けている。

所持品や歯型、献血も

手掛かり

遺体の身元は身体特徴や所持品、歯型、指紋のほか、DNA鑑定によって特定される。

岩手、宮城、福島の3県警が、身元確認の根拠とした主法の内訳は表の通り。

「身体特徴・所持品」が最も多く、3県で計13万3602人が確認された。「歯型」での特定は計1150人で、これら二つの手法で身元が分かった方4752人のうち、2937人については親族間DNA鑑定の結果も併用された。

捜査関係者によると、親族間のDNA鑑定は「（父親や兄弟、親族と）考えて矛盾しないとの結論にとどまり、それだけでは身元確認の根拠にできないという。

百パーセント一致する本人のDNAによる確認は1446人。津波で本人のDNAが流失したケースが多かったことから、警察庁は日本赤十字社に協力を要請、日赤が献血者1年間分を保存している血液の一部に鑑定を依頼。データベースを構築し、照合作業の効率化を図っていた。

宛は、本人のDNAの付着した物品のない場合が多いため、遺体のサンプルと親族のサンプルも解析しなければならない。そのため検索数は膨大となり、結果が出るまでに時間がかかる。

3県警は全国の警察官に、身元確認の根拠となる法律の内訳と表の通り。

「身体特徴・所持品」が最も多く、3県で計13万3602人が確認された。「歯型」での特定は計1150人で、これら二つの手法で身元が分かった方4752人のうち、2937人については親族間DNA鑑定の結果も併用された。

捜査関係者によると、親族間のDNA鑑定は「（父親や兄弟、親族と）考えて矛盾しないとの結論にとどまり、それだけでは身元確認の根拠にできないという。

百パーセント一致する本人のDNAによる確認は1446人。津波で本人のDNAが流失したケースが多かったことから、警察庁は日本赤十字社に協力を要請、日赤が献血者1年間分を保存している血液の一部に鑑定を依頼。データベースを構築し、照合作業の効率化を図っていた。

遺体の身元確認手法の内訳（3県警まとめ）
2012年2月11日現在

	身元確認数	身体特徴/所持品	歯型	本人のDNA鑑定 直接資料	本人のDNA鑑定 血縁検体	指紋	掌紋
岩手県	4,548	4,343 (95.5%)	118 (2.6%) うち親族間DNA鑑定併用	29 (0.6%)	12 (0.3%)	46 (1.0%)	
宮城県	9,115	7,904 (86.7%)	833 (9.1%) うち親族間DNA鑑定併用 1,005	79 (0.9%)	17 (0.2%)	282 (3.1%)	
福島県	1,600	1,355 (84.7%)	199 (12.4%) うち親族間DNA鑑定併用 165	5 (0.3%)	4 (0.3%)	37 (2.3%)	
3県計	15,263	13,602 (89.1%)	1,150 (7.5%) うち親族間DNA鑑定併用 2,383	113 (0.7%)	33 (0.2%)	365 (2.4%)	

宮城海上保安部と宮城県警による合同捜索。行方不明者の捜索は陸上から海に重点が移っている＝6月13日、気仙沼海

捜索

海と要望地点に重点

岩手、宮城両県での行方不明者の捜索は、陸上から海に重点を移している。新たな行方不明者の発見が難しくなる中、両県警は捜索の要望がある地点にも、捜索隊を投入。石巻市の大川小近辺や宮城県山元町の荒浜小近辺で、懐く海と捜索を実施している。

岩手県では6月上旬、大船渡市内で行方不明になっていた女性用半纏や釜石市内のがれきの中から、被害者とみられる遺体が相次いで発見された。

岩手、宮城両県警の幹部は「これまでの捜索に時間にかないかも知れないが、きちんと成果を上げて被害者を見つけられるよう全力を尽くす」と口をそろえる。

一方、福島県警は震災後に起こった原発事故により、依然として放射線量が高い地域を抱える福島県の沿岸部では、行方不明者の捜索が思うように進んでいない。